

平成 20 年度 法科大学院（法務研究科）既修者認定試験

# 刑 法 問 題 紙

A 日程

平成 19 年 10 月 28 日

16 : 00 ~ 17 : 30 ( 90 分 )

( 120 点 )

## 注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、問題を開いてはいけない。
2. 刑法の問題紙は 1 ページのみである。
3. 解答用紙は、問題 1 と問題 2 の 2 枚である。解答用紙の追加は認めない。
4. 解答用紙は 2 枚ともかならず提出すること。
5. 監督者の指示に従い、すべての解答用紙に受験番号と氏名を記入すること。
6. 解答はすべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
7. 試験終了まで退室してはいけない。

北 海 学 園 大 学

## 問題 1 (60 点)

甲はAを殺害しようと、友人の乙と共謀してA宅に赴き、甲が家の様子確かめるために乙を入口付近に残し建物の反対側に回ったところ、外出から帰ってきたAが乙を見つけ、突然持っていた短刀で背後から乙に襲いかかった。その際、乙はAに胸を刺されその場に倒れたが、なおも襲いかかってくるAに対して、Aの命に危険を生ずるかもしれないことを認識しつつ、難を逃れるためには仕方がないと考え、たまたま側にあった拳大の石を投げつけたところ、石がAの眉間にあたりAを死亡させた。甲と乙の罪責を論ぜよ。

## 問題 2 (60 点)

甲は、A女が一人で経営しているスナックで飲酒していたが、閉店間際になって他に客がいなくなり、日頃から好意をもっていたA女と二人きりになったのを機会に、想いを遂げようとA女を誘ったがすげなく断られたため、A女を強姦しようと決意し、灰皿でA女の顔面などを殴りつけるなどの暴行を加えたところ、A女が床に倒れ頭から血を流して動かなくなった。甲は、これを見てA女が死亡したものと誤信し、姦淫をすることはあきらめたが、犯行の発覚を防ぐため、押し入り強盗の仕業のように見せかけようと考え、カウンターの奥にあった現金20万円をA女のバッグに入れて持ち去り逃走した。ただし、バッグの中には現金ともども、スナックの側にある川に投げ込んだ。甲の罪責を論ぜよ。